

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム ローゴム
日付	平成19年3月31日 特定非営利活動法人 ライフサポート
<b>評価機関名</b>	
評価調査員	在宅介護経験9年
評価調査員	ケアセンター介護支援専門員経験5年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して(特に良いと思われる点など)
行政的立場から見ると話しは別かも知れないが、家族の立場から立ててみて、これ程素晴らしい介護記録に、私は、あまり出合った事がない。「注目事項」の項目には「排泄」「バイタル」「歩行」「意欲」等生活の基本事項の他に「発言」とか「大きな変化」等、トピックスがリアルに記録されている。これらの記録は、本日の外部評価の訪問中に目の前のケアを土台にして見れば、十分想像し得る記録になっていて、私はその時の情景を自分の頭の中に再現して、胸躍る気持ちで読み進んでいた。突然の訪問の私ですらそうなのだから、共に暮らしている職員が、この記録をどれ程大切に思っているか、想像出来る。そして、この職員が「3ヶ月に一度ケアプランの見直し」という常識を度外視して、「日にち単位で」否、状況によっては「秒単位で」介護計画の見直しの提案をこの記録に記し、全ての職員が目を通し、共に考え、共有している。「日々、介護記録の中で情報をアセスメントし、次の瞬間のより良いケアに生かしていく、理想と思っていた姿に、ここで遭遇した。ケアプランの見直しに止まらない。「さん」さんの新発見有り「職員」さんの感性の新発見や想像力・洞察力の発見もある。「ヒヤリ・ハットの報告」も見られるし、「ある事象の経過報告」もこれで見ることが出来、凝縮されたものになっている。
管理者は、この記録を基にして約1年前から「介護通信」を毎月まとめて家族に送っている。遠方の家族が多いため、家族にとってありがたい通信となっているが、他の視点から考えても実に有効な発案だ。「無駄な記録は少しでも省きたい」このホームの現状から見れば、「この1ヶ月、自分たちがしてきたケアを振り返り見つめ直すチャンス」ともなり、「さん」さんの歴史を見易く残す方法ともなっている。このグループホーム全体を通じて見て、「我が国に一つしか無い、ピック病の人とその家族に福音をもたらしてくれているホーム」の数多くある他に見られないような優れた特徴の中から、あえて「介護記録」を取り上げた。
特に改善の余地があると思われる点
次のような提案をした
最近マスクでもこの病気の事がよく取り上げられるようになってきた。ピック病の人が増えたと言うより、専門医の診断が正確になってきて注目されてきているのかも知れない。いずれにしても対策は遅れている。先駆的なここのケアのあり方がより共有出来るようお願いしたいと同時に、まだまだ「蚊帳の外」の感じの「薬の副作用の問題」についても、このホームの実践を、声を大にして訴え続けて頂きたい。

### Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	グループホームとしてめざしているものは何か		
	人間の「素」の姿ありありの人と真正面から向かい合い、対等なお付き合いをして「場合によっては彼女から教えられる事もある」と職員は言う。心眼で見られて、職員はたじたじとして、目を見開かされる時もあるそうだ。こんな感性を持つ職員だから、と言えよう。 現在マスクでも注目されているピック病のケアを専門としている、日本で唯一のホーム「ローゴム」では、抗精神薬その他数々の医薬品で薬漬けになった人から薬を抜いていって、人間本来が持っている自然治癒力や恒常性維持力を蘇らせようとしている。3ヶ月、長くても半年はかかるかも知れないが、優れた介護知識や介護技術、そして、先に述べたような感性を持つ職員のおあふれる愛情によって、この人達は「人」として確実に生まれ変わっている。ある動作の途中で、職員とその人が互いに抱き合ってじっとしている姿は神々しさすら感じる。薬の多用によって蝕まれている人が多い今の日本の現状への静かな抗議の姿か?とも思える。このホームの後に続く所の出現が待たれる。		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違いない等の防止策		
<b>記述項目</b>	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	このホームに辿り着くまでの、また、入居後この生活に落ち着きを得るまでの数々の苦難を、殆んど感じさせない場作りは心憎いまでの仕上がりが、スウェーデン製の木造住宅や内装、椅子等の家具、街中の画廊に足を踏み入れたような雰囲気作りもさる事ながら、その空気にふんわりと馴染んでいる住人の、なんとお洒落な事。外部評価で入った私は、仕事を忘れて、素敵な喫茶店で、上等のミルクティを堪能した。 当日の午後、毎日のように訪問するというさんのご主人も、食器棚からマイカップを取り出し、コーヒーを自分で入れて、すっと仲間に溶け込んでいた。		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	利用者一人ひとりの介護の方法の違い、困難性がこれ程厳しいホームに私は未だ出会っていない。お箸を上手に使う食事は出来るのに水分摂取が困難な人、カップを口に何度も当てて唇を刺激して飲む姿勢を整える必要がある人、食事介助の時のタイミングの取り方等、非常に専門性を必要とする人、ベッドから車椅子への移動にリフトが必要な人等、しばらく見ていただけでも数えられない位の見事な介助技術が見られた。体が斜前傾し、以前は立位もとれなかった人が、一人の両手介助で歩行出来ている。その方法は、誰かが真似して出来るものではなく、その人に合った独特の工夫から生み出されたものだろう。口から言葉が出る人は少なく、訴えや表現は表情から読み取る。歩行訓練をもらった人の歩けた喜びは、ほんの微かな表情の緩みから伝わり、職員の笑顔に繋がっていく。「その人の内在している力を可能な限り引き出して、少しでも自立した暮らしを、と願う職員の内が私の方にぐんぐんと伝わり、そして、倦む事なく気が遠くなるような努力を延々と続ける姿に感動を覚えるホームである。		

### Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	何度このホームを訪問しても、その都度私自身の背筋がしゃんとするような気持ちになる。どんなに困難で忍耐を要するような日常でも、職員はまるでこの生活を楽しんでいるかのようだ。一昨年の訪問の時「春の小川は、さらさら…」と歌っては、カラカラと楽しそうに笑っていたさんは、歌声こそ聞かれないが以前と同じように廊下を歩き続けソファで休む。穏やかで美しいさんの優しい目は、私の心の底を見つめているようだ。かつてのさんを知っている家族や職員は「人間らしい姿を取り戻せた喜びや達成感」から自然に笑みがこぼれ、今日のような明るい日常を継続させているのだろう。		